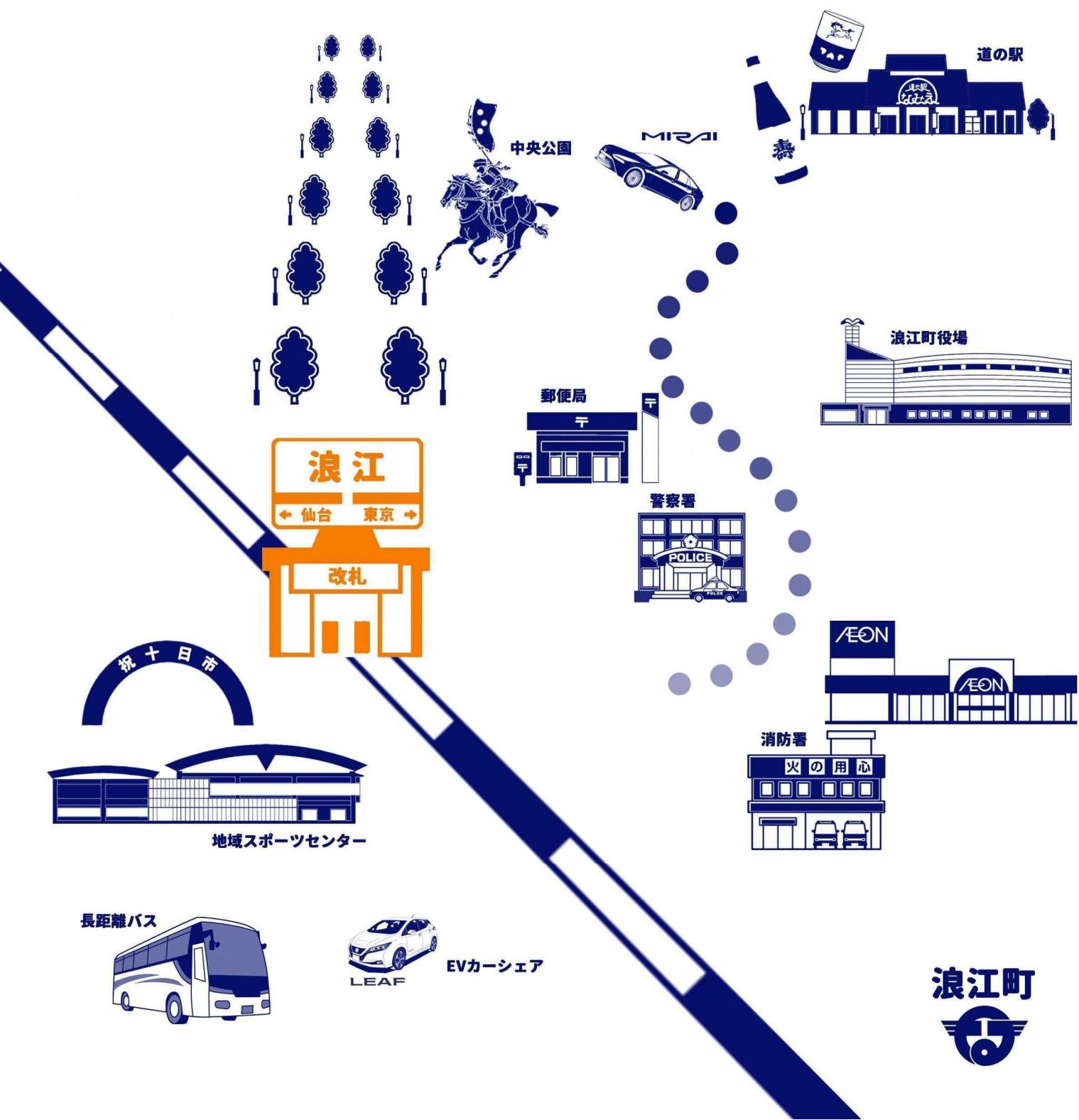


浪江駅周辺整備計画

2021.3





Contents

1	浪江町の復興 10年	1
2	浪江町の先進的復興まちづくり	2
3	中心市街地（浪江駅周辺）の状況	3
4	これまでの中心市街地のまちづくり	4
5	中心市街地のまちづくり	5
6	浪江駅周辺のまちづくり	7
7	先導整備エリアのまちづくり	8
8	先導整備エリアのイメージ	9
9	中心市街全体への波及効果イメージ	11
10	今後のまちづくり	13

1 浪江町の復興 10 年

東日本大震災（地震・津波・原子力災害という未曾有の複合災害）の発生から 10 年が経過しました。この間、浪江町では様々な復旧・復興事業を行い、町の再生に取り組んできました。

幾世橋地区と請戸地区に災害公営住宅等を整備するとともに、浪江診療所の開設、なみえ創成小・中学校や浪江にじいろこども園を整備し、早期帰還を望む住民が暮らせるまちづくりを進め、さらに道の駅なみえの建設やスーパーマーケットの誘致等を通じて、安心・安全に生活できる環境整備に取り組んできました。

棚塩産業団地の整備など産業振興による復興を図るとともに、農林水産業の再生に向け、営農再開支援やカントリーエレベーターの整備、棚塩産業団地への集成材工場の誘致、請戸漁港とその周辺で漁業施設の整備等を進めています。



写真左より
・幾世橋集合住宅
・なみえ創成小・中学校
・浪江にじいろこども園



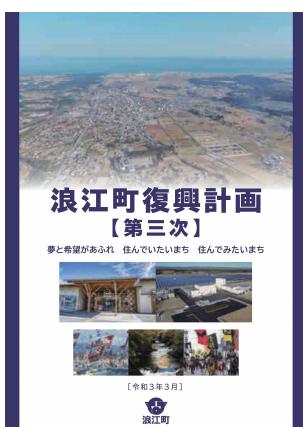
写真左より
・道の駅なみえ（外観）
・道の駅なみえ（店内）
・イオン浪江店



建設中の乾燥調整貯蔵施設
～カントリーエレベーター
(苅野)



福島高度集成材製造センター【FLAM】
(完成イメージ)



浪江町復興計画【第三次】（令和3年3月）では、「夢と希望があふれ 住んでいたいまち 住んでみたいまち」を理念に、持続可能なまちづくりに取り組みます。

町内では、なみえ水素タウン構想やゼロカーボンシティ宣言、自動運転の実証実験など、次世代プロジェクトを全国に先駆けて積極的に実施しています。

持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標として、国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）※」の理念のもと、浪江町は、下記に掲げる先進的な復興まちづくりに資する取組を推進しています。

※ 2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの開発目標のこと、持続可能な世界を実現するため、貧困や飢餓、気候変動など17の目標（ゴール）と、それらをより具体化した169の達成基準（ターゲット）で構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター HP

なみえ水素タウン構想

棚塩産業団地に立地する福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）で製造される水素の積極的な活用に向けなみえ水素タウン構想を策定しました。

効率的な水素の活用導入に向けた課題の整理や解決を目指し、町内において様々な実証実験などを行います。再生可能エネルギーのみを使用する「棚塩 RE100 産業団地」にも水素を供給・活用する計画です。



棚塩産業団地

ゼロカーボンシティ宣言

浪江町は、FH2R の開所に先立ち、令和2年3月にゼロカーボンシティを宣言しました。

2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指に、様々な分野において、低炭素・脱炭素に関する取組を進めるとともに、なみえ水素タウン構想と連動して、浪江産水素の地産地消を目指します。



福島水素エネルギー研究フィールド【FH2R】

復興スマートコミュニティ事業



浪江町の復興まちづくりの推進のため、電気自動車（EV）の活用を通じて、再生可能エネルギーの蓄電による非常用電源としての利用や、廃蓄電池リサイクル等のビジネスモデル化による新たな雇用創出等、「EVが“つなぐ”地域の活力と安心」をテーマに、EV活用先進のまちづくりを目指します。

3 中心市街地（浪江駅周辺）の状況

浪江駅東側の現状

令和2年3月、JR常磐線全線で運転が再開され、今後、さらなる浪江駅利用者の増加が期待されます。

また、東日本大震災発災以前、相双地域のにぎわいの中心であった浪江町中心市街地では、飲食店の再開や開業が始まっています。

一方で、中心市街地全体、特に浪江駅周辺では、被災した家屋の解体が進み、その後の土地利用が行われないまま空き地が増加してきました。

常磐線で浪江町を訪れた方が最初に降り立つ駅東側は、「まちの顔」としてにぎわいの復活に向けた取組が必要となっています。



新町通り



浪江駅前から北東方向を望む

浪江駅西側の公共施設整備

震災前に整備した浪江町地域スポーツセンターに加えて、運動公園の再整備、地域交流施設、介護関連施設、屋内アスレチック施設等、「地域公共施設」の建設を進めています。



浪江町地域スポーツセンター

浪江駅東西間の連携強化

浪江町全体の復興に寄与するため、まちの顔である駅東側と、地域公共施設の整備が進められる駅西側が有機的に連携し、明確な役割分担と機能強化を推進する必要があります。

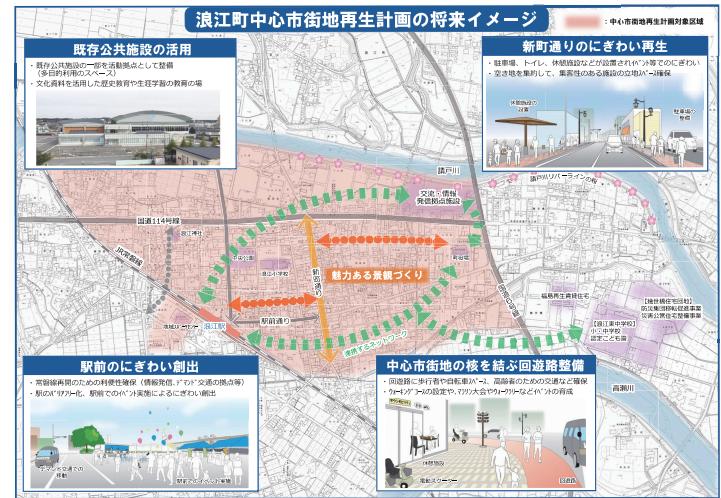


地域公共施設（完成イメージ）

浪江町中心市街地再生計画

平成29年3月、復興に向けた中心市街地のまちづくりを推進するため、「浪江町中心市街地再生計画」を策定しました。

中心市街地の対象約160ヘクタール内の将来イメージを示すとともに、各ゾーンにおける機能と相互連携（回遊性の向上）について整理しました。



出典：浪江町中心市街地再生計画

浪江駅周辺エリアのまちづくりビジョン

中心市街地再生計画を踏まえ、駅前にぎわい創出を主眼に、「まちの顔」の再生に向か、コンパクトなエリアに集中投資を行う【先導整備エリア】と、その投資効果を周辺エリアに波及させていく【まちづくり推進エリア】の考え方を示した「浪江駅周辺エリアのまちづくりビジョン」を、令和2年3月に策定しました。

【先導整備エリア】においては、周辺市町村を含め各エリアで活動する多様な属性の人々が交流し、にぎわいが生まれるためにふさわしい場所とすることを目指しています。

その後、計画の検討に際し、関係者からご意見を伺うとともに、浪江町役場内において浪江駅周辺のまちづくりに関する議論を重ね、このたび浪江駅周辺におけるまちづくりの方向性を「浪江駅周辺整備計画」として取りまとめました。

この実現には、浪江町民をはじめ「担い手・つかい手」となる人材や企業との連携・協働が不可欠です。



出典：浪江駅周辺エリアのまちづくりビジョン

1. 相双地域の玄関口としての機能強化

福島イノベーション・コースト構想に代表される、相双地域全体での復興事業の進展を踏まえ、同地域の中心に位置する立地優位性を活かし、浪江駅周辺を「相双地域の玄関口」として機能強化を図ります。

また、浪江町だけでなく相双地域の復興に資するとともに、それらの情報を全国に発信していきます。

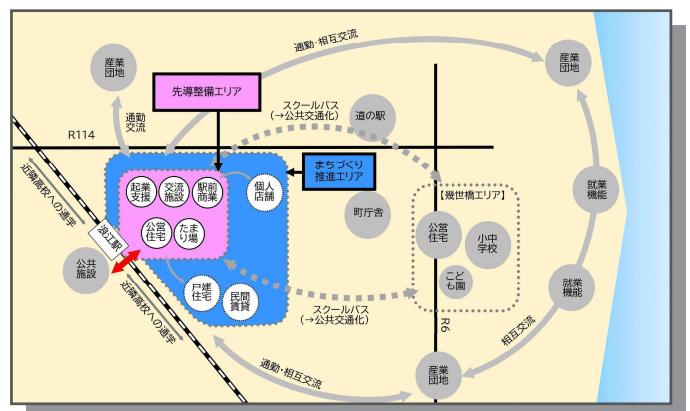


出典：福島県イノベーション・コースト構想

2. 町内における復興を有機的に連携させる役割

産業団地の整備による雇用創出や、農林水産業の再生など、町内各地で進む復興の取組を「有機的に連携」させることが重要であり、相乗効果を生み出す役割が必要です。

交通利便性が高く、各取組の中心的な位置に存在する浪江駅周辺が、これらの役割を担います。



3. 浪江らしさを生かすまちづくり

産業の再生は今後の復興の大きな柱になっていきます。FH2Rなどの先進的取組のほか、カントリーエレベーターを使った農業再生への取組、復旧・再整備された請戸漁港で操業再開した漁業、FLAMを活かした木材産業の新たな取組、伝統ある大堀相馬焼など、様々な産業分野が共存する浪江町の魅力を浪江駅周辺や中心市街地で積極的に情報発信し、浪江らしさを生かすまちづくりを目指します。

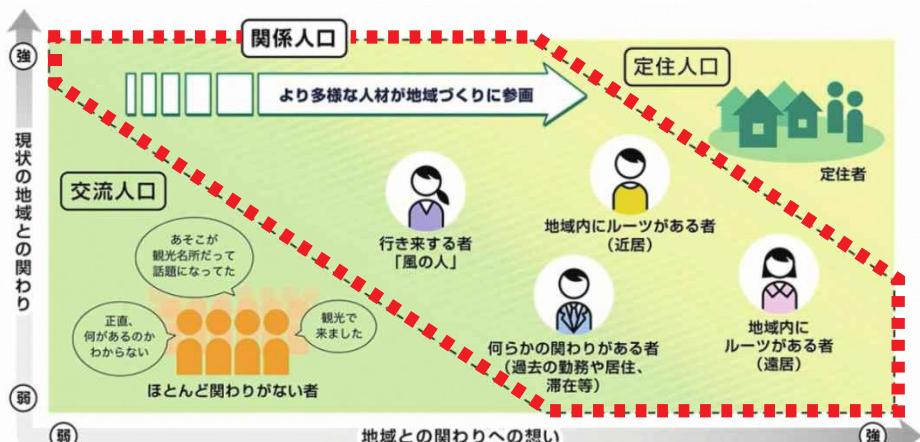


福島水素エネルギー
研究フィールド
【FH2R】



請戸荷捌き場

4. 移住定住の促進・関係人口の拡大

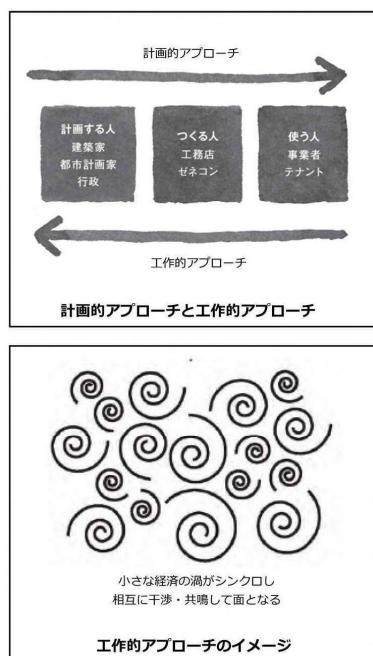


出典：総務省「関係人口ポータルサイト」

全国の地方都市の共通課題である人口減少に対し、移住定住の促進に向けた取組を中心市街地で実施します。

また、移住定住の取組とともに、町との関係性を深め、地域活動を担う「関係人口」と呼ばれる人材に町の魅力を発信し、地域づくりの担い手へとつなげます。

5. まちの担い手とともに、まちの価値を高める取組



中心市街地の更なる復興には、人々の活動を呼び起こし、まちを使うことで、価値を高めていくことが重要です。

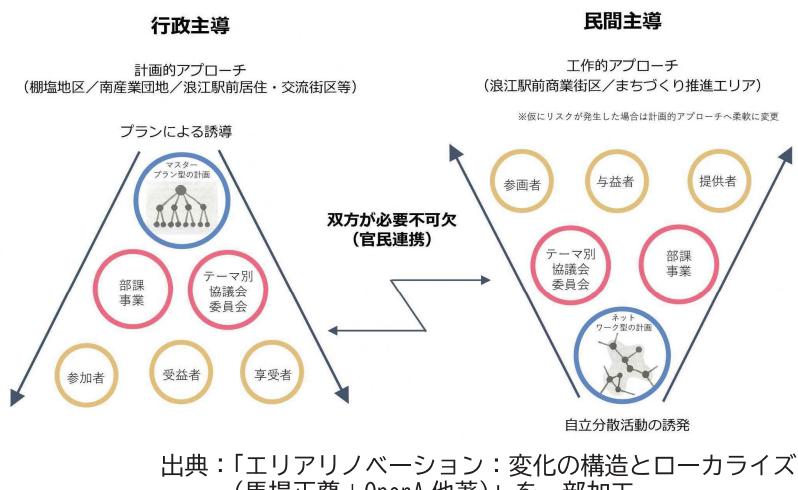
インフラ整備【行政主導の計画的アプローチ】を進めると同時に、「担い手・つかい手」とともに行うまちづくり【民間主導の工作的アプローチ】によって、様々な活動が生まれる状況をつくることが必要です。

試行的・暫定的な取組も含め、帰還した町民、次世代を担う若者、外部の人たちが活動を始めやすい環境づくりを目指します。

また、水素の活用に向けた実証実験、事業者や起業家による新たな産業の創出なども視野にまちづくりを進めます。

浪江駅周辺のまちの価値を高めるため、民間人材・企業の意見や取組を積極的にまちづくりに取り入れながら、様々な活動を始めやすいまちを目指します。

また、町の将来や地域産業を担う人材を育成することも重要な取組です。



出典：「エリアリノベーション：変化の構造とローカライズ（馬場正尊+OpenA他著）」を一部加工

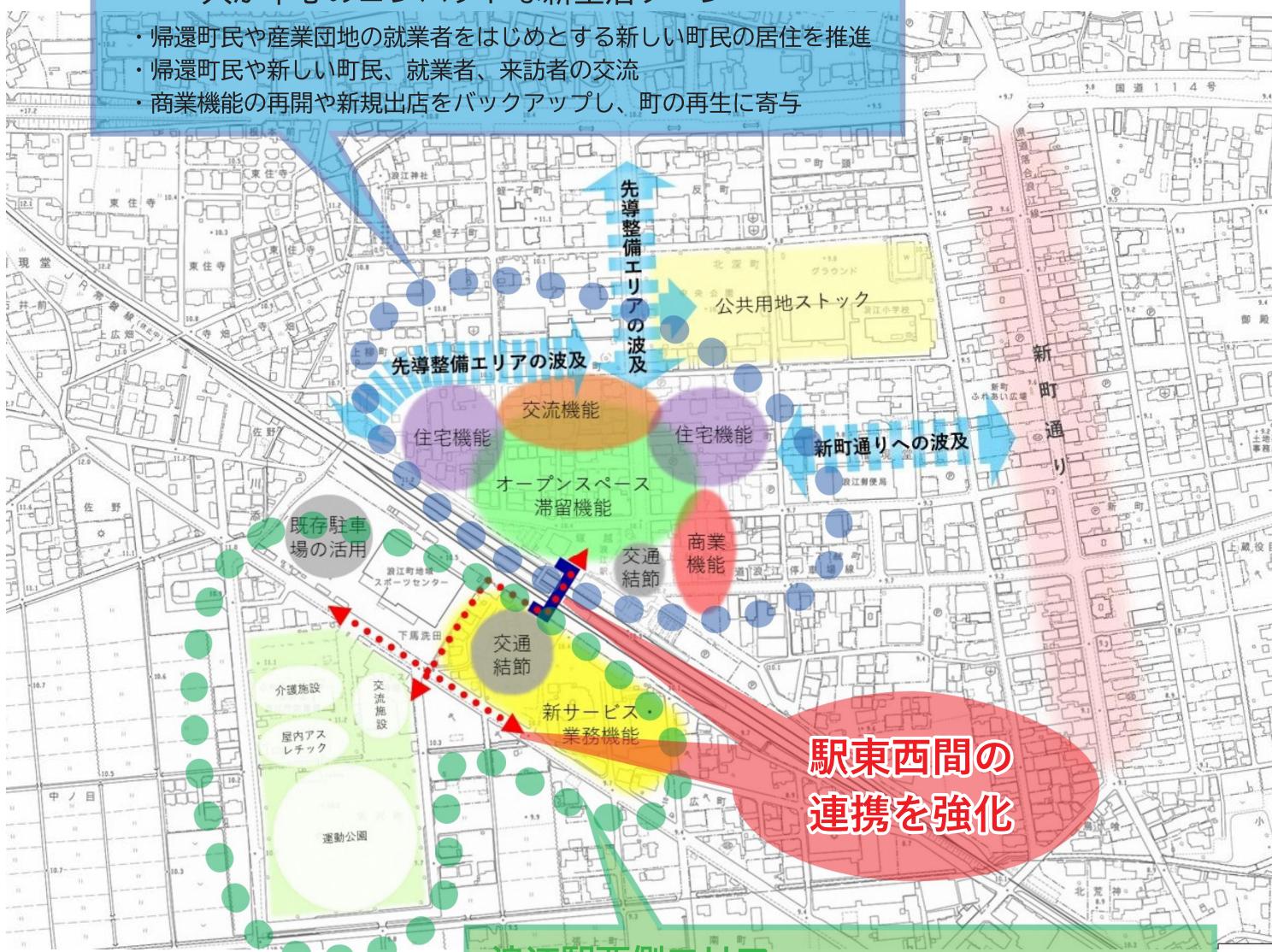
浪江駅東西の役割分担と連携強化

「先導整備エリア」としてまちづくりを進めていく浪江駅周辺エリアは、従来から市街地であった駅東側と、浪江町地域スポーツセンターや新たに整備される地域公共施設が集積する駅西側で、機能や役割を分担するとともに、駅東西それぞれが相互に機能や役割を発揮できるように連携を強化する必要があります。

浪江駅東側エリア

～居住・交流・商業の各機能を一体的に配置する
人が中心のコンパクトな新生活ゾーン～

- ・帰還町民や産業団地の就業者をはじめとする新しい町民の居住を推進
- ・帰還町民や新しい町民、就業者、来訪者の交流
- ・商業機能の再開や新規出店をバックアップし、町の再生に寄与



浪江駅西側エリア

～公共公益サービス拠点・大規模集客拠点
及び交通結節機能を活かした移動拠点～

- ・スポーツセンターをはじめとする健康・福祉・文化の拠点
- ・イベント開催時には町内外から多数の来訪者
- ・駅と自動車などの接続利便性を活かした周辺地域との移動拠点

1

駅前の空間形成による「まちの顔」づくりを進めます

- ・人が中心のコンパクトなまちづくり
- ・駅東側に、オープンスペース・居住機能・交流機能・商業機能を一体的に配置
- ・駅の東西で交通結節機能（バス輸送等）の役割分担を明確化
　　東側…町内巡回（近距離）　　西側…中心市街地～町外（中・長距離）

2

駅東西それぞれの機能を最大限活用するため連携を強化し相乗効果を生み出します

- ・駅の東西間の往来利便性向上と連携強化のため、自由通路を整備
- ・駅機能を再構築

3

駅前には居心地の良い屋外滞留空間を形成します

- ・オープンスペースは、単なる駅前広場ではなく、周辺の各機能と一体感を演出
- ・様々な活動の場としての活用、多様な人々の交流の促進に寄与
- ・電車待ち、送迎待ちの時間を居心地良く過ごせる空間

4

新たな交流が生まれる場、移住定住の促進、関係人口の拡大に向けた拠点を形成します

- ・帰還される市民や産業団地就業者等の新居住者向けの居住機能を先導的に整備
- ・定住人口の増加により、周辺での商業再開や民間住宅供給を誘導
- ・新たな交流、新たな産業や雇用を生み出す交流拠点の整備

5

中心市街地全体への波及効果を考慮したまちづくりを進めます

- ・先導整備エリアの効果が、周辺へ波及することを意識した基盤整備
- ・まちづくり推進エリアなど、周辺部におけるまちづくりについても並行して検討

6

まちの「担い手・つかい手」とともにまちづくりを進めます

- ・計画段階から「担い手・つかい手」の参画を促進
- ・多様な主体、メンバーを呼び込み、持続的なまちづくりを実現
- ・将来の状況にあわせた方向性の変化にも柔軟に対応

交流機能

<事業共創・駅前拠点再生>

コワーキングスペース

レンタルオフィス

町内立地企業等の情報発信

憩いの空間（カフェ・ラウンジ）

<移住定住関連・行政機能>

移住定住のワンストップ窓口

地域おこし協力隊の活動拠点

交流機能の事例



多賀結いの森（多賀町）

駅周辺の公共空間

人優先・歩車共生の道路空間

段差がなく、移動・路上利用が容易

水素・自動運転等の実験と情報発信

多様な活動の場となるオープンスペース

駅前オープンスペースの事例

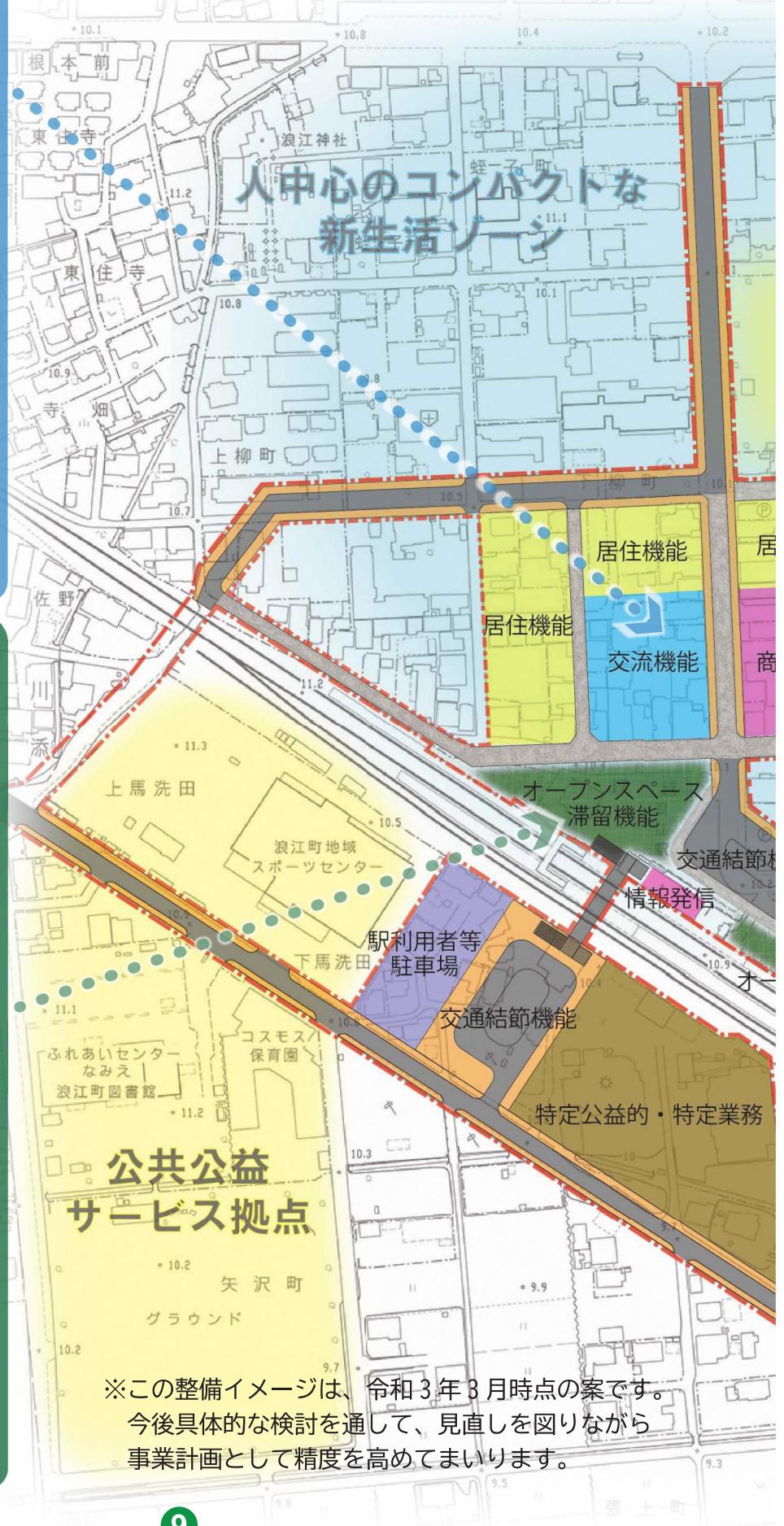


北本駅西口広場（北本市）

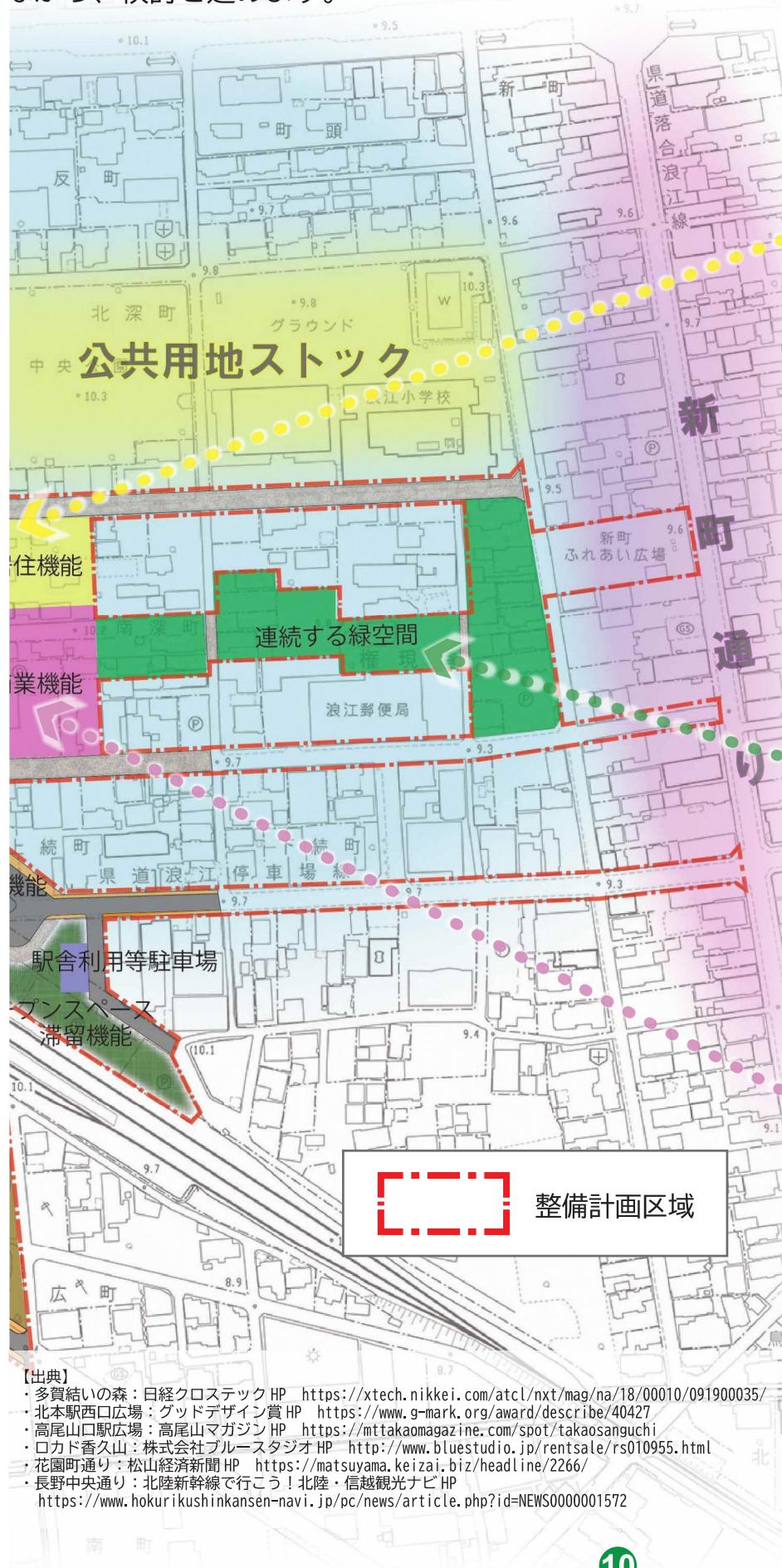


高尾山口駅広場（八王子市）

先導整備エリアにおける各「導入機能」や公共空間の具体化対象者などを想定し、「担い手・つかい手」と連携・協働し



に向けて、それぞれが目指す役割、使い方、ながら、検討を進めます。



居住機能 <想定入居者>

帰還町民

自宅への帰還を目指す町民

産業団地就業者

移住定住が前提の関係人口

居住機能の事例



連続する緑空間

緑に囲まれた遊歩道のような通行空間

新町通り方向へのぎわいの誘導

パーソナルモビリティ等の実証実験

沿線店舗と連携した飲食スペース等

緑空間と商業機能の共存



商業機能

交流・居住機能を支える生活基盤

商業再開に向けた暫定店舗も視野に

状況に応じて変化が可能な施設に

歩車共生の道路空間



第2段階の例：
緑空間に面した商業



第2段階の例：
民間住宅の誘導



第1段階：先導整備エリア

公共用地ストック

新
町
通
り

歩行者動線

公共公益施設

第2段階の例：
産直市場



【出典】

- ・松本城山公園「憩の森」：ことりっぷHP：<https://co-trip.jp/article/16406/>
- ・天平の丘公園：リビング栃木：https://mrs.living.jp/tochigi/a_topics/article/3481914
- ・大塙地集合住宅：神山町HP：<http://www.town.kamiyama.lg.jp/co-housing/residents04.html>
- ・住宅産業振興財団HP：<https://www.machinami.or.jp/>
- ・デービスファーマーズマーケット：公益財団法人ハイライフ研究所HP：<https://www.hilife.or.jp/cities/data.php?p=173>

浪江町中心市街地全体の復興に向けて、まずは先導整備エリアに取り組み（第1段階）、その整備効果がまちづくり推進エリアに広がり（第2段階）、さらに中心市街地全体に効果が波及するまちづくりを目指します（第3段階）。



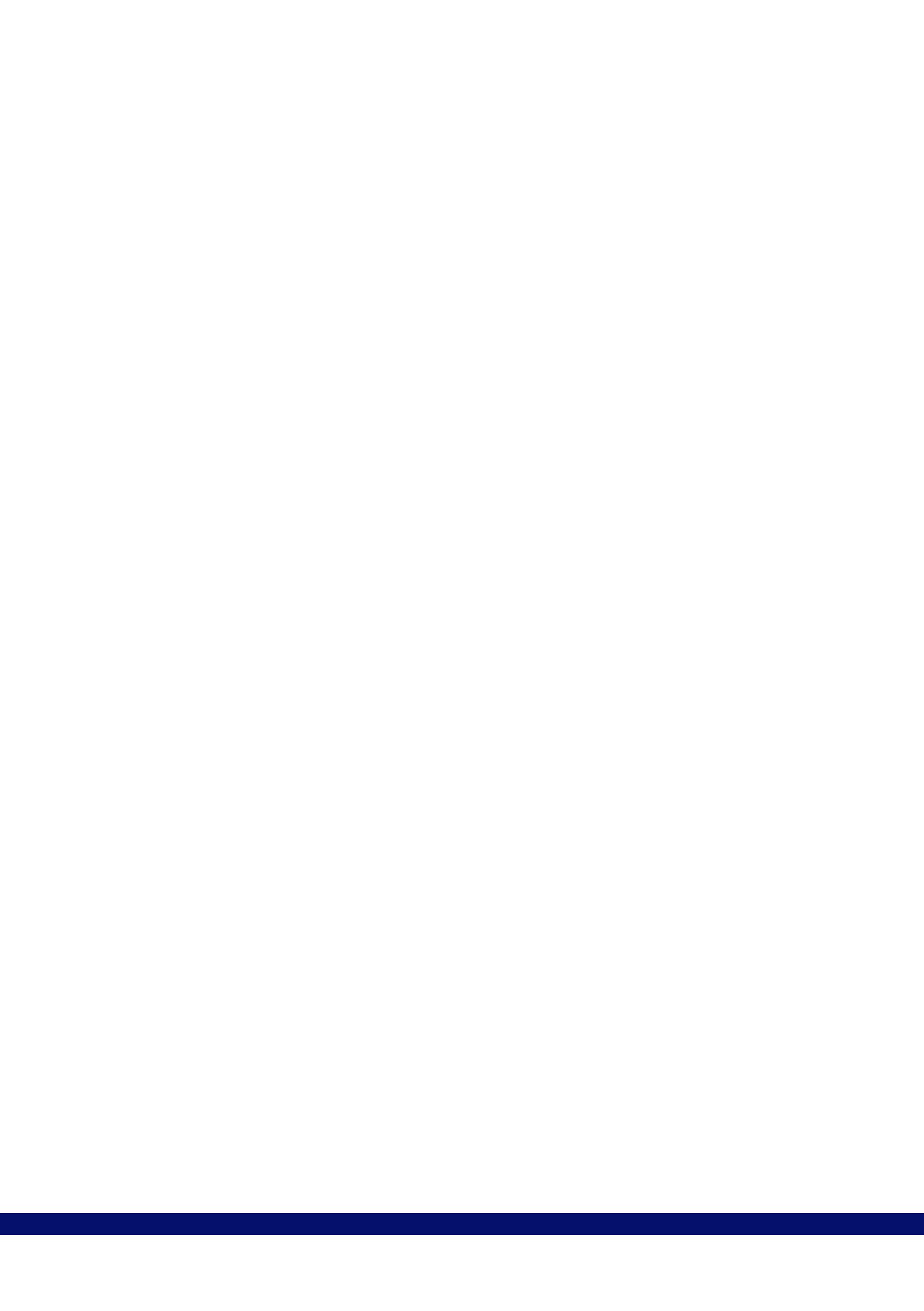
10 今後のまちづくり

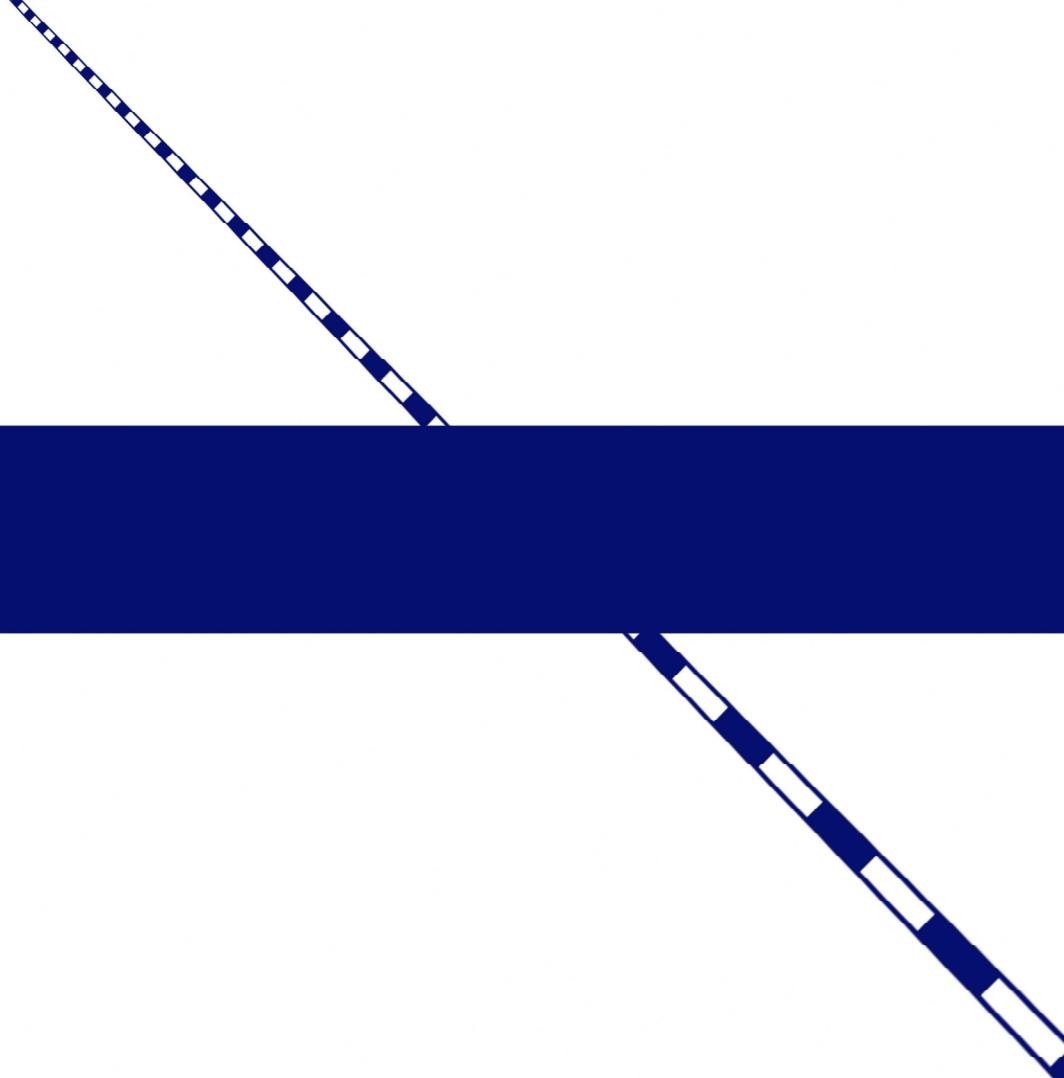
先導整備エリアにおいては、各導入機能の早期完成・運用開始を目指し、基盤整備は「一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業」を前提に検討を進めます。

担い手・つかい手との連携・協働や、周辺への波及効果を意識し、まちづくりを進めます。

現時点で想定するスケジュールは以下の通りです。(今後変更となる可能性があります。)

	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5~8年度 (2023~26)
一 団 市 街 地 の 復 興 再 生 拠 点 地 形 成 施 設 事 業	法手続き	都市計画決定 事業認可	
	基盤整備	基本設計・調査等 用地取得 【自由通路】基礎調査	実施設計 基盤整備工事 実施設計 工事
民間人材・企業等との連携	個別ヒアリング等	「担い手・つかい手」との連携	
中心市街地全体への波及に向けた取組		基盤整備の情報発信 事業者ヒアリング、周辺地権者との対話	
先 導 導 入 備 機 工 能 リ 整 ア 備 の	交流機能	基本設計 実施設計	建築工事 完成
	居住機能	【公営】諸元決定 【民営】住宅事業者との協議	建築工事 完成
	商業機能	運営主体・整備手法・研究等	建築工事 完成
		イベント開催・仮設店舗等	





介護施設



復興まちづくり支援施設



屋内遊び場

